大 島 遺 跡

第1～4次発掘調査概要報告書

－盛岡市中央卸売市場（新市場）整備関連発掘調査－

竪穴建物跡出土土器群（9世紀後葉）

羽釜（あかやき土器）

大甕（須恵器）

石帯具（丸鞆）

竪穴建物跡主柱穴出土柱材

木製鍬

2021. 8

盛岡市教育委員会

例言

1　本書は，岩手県盛岡市羽場 10 地割に所在する大島遺跡において，中央卸売市場（新市場）整備に伴い平成９～11 年度に実施した発掘調査の概要報告書である。

2　本書の編集及び刊行事務は盛岡市遺跡の学び館が行い，執筆を津嶋知弘が担当した。

3　遺構平面位置は，日本測地系　平面直角座標Ｘ系を座標変換した調査座標で表示した。

・調査座標軸は，日本測地系第Ｘ系に準じる

・調査座標原点

Ｘ -35,000　Ｙ +25,000　→　ＲＸ ±0　ＲＹ ±0

4　高さは，標高値をそのまま使用した。

5　古代の竪穴住居跡のカマド方向は，カマド本体の中心（焚口）から煙道の先端（煙出し）を結んだ線の方向の傾きとした。

6　古代の土器区分は，土師器・須恵器・あかやき土器に分類した。「あかやき土器」の名称は，ロクロ使用の酸化焼成土器（坏類，甕類，鉢）に使用し，ロクロ使用の内面黒色処理の坏類は土師器に分類した。

7　出土遺物の写真撮影は，津嶋知弘が行った。

8　発掘調査に伴う出土遺物及び諸記録は，盛岡市遺跡の学び館で保管している。

目次

〔本編〕

Ⅰ　発掘調査の経過・・・

Ⅰ　発掘調査の経過

事業経過　昭和43年(1968)に開場した田市場は，県内唯一の中央卸売市場でありながら設備の老朽化・機能不足などが課題となっていた。その抜本的解決のため，平成5年(1993)3月に新市場整備基本構想が策定され，施設の移転事業が開始された。

現地確認　平成6年(1994)9月に決定された市場移転予定地は，東北自動車道盛岡南インターチェンジの南東に隣接して広がる水田地帯であり，その北半部が周知の埋蔵文化財包蔵地「大島遺跡」の東方に隣接していた。中央卸売市場新市場整備推進室が移転予定地の用地取得，農業振興地域除外，都市計画決定等の手続きを進める中，教育委員会文化課が当該地の現地確認を行ったところ，水田畦畔より古代の土器が採集され，遺跡の範囲が東に拡大すると判断された。

試掘調査　このため，新市場推進室と文化課が対応を協議し，地下遺構の有無を確認する試掘調査を実施することとなり，盛岡市域である羽場10地割の142,531.95㎡を対象として文化財保護法に基づく発掘通知が平成8年(1996)10月に提出され，同年11・12月に試掘調査を実施した。対象地全域に重機で試掘トレンチ60本を設定し(調査面積4,840㎡)，遺構・遺物の有無を確認した。その結果，対象地の西側～南側の大部分は古い河道であり，遺構・遺物が確認されなかったものの，北東側では平安時代の竪穴建物跡や溝跡が多数検出され，多くの土師器・須恵器などが出土したため，東西約300m・南北110mの範囲について，本調査が必要となった。

本調査　要本調査範囲は，市道大島線の拡幅，市場内道路・駐車場・水産冷蔵庫(民間施設)・緑地帯の予定地に該当しており，平成9年(1997)の工事開始を目前に早急な発掘調査の実施が求められたものの，対象面積が33,000㎡と広大でかつ遺構密度が高いことから，短期間での全面調査完了は現実的に不可能であった。そのため，最初に着工される新市場基盤整備工事の施工監理を担当する道路建設課と工程の調整を行い，平成9年(1997)中に市道大島線拡幅範囲，平成10年(1998)中に市場内道路範囲，平成11年(1999)中は残る範囲を発掘調査し，終了箇所から順次工事を行うこととなった(教育委員会予算)。この間，平成9年(1997)秋に県内で出土例が少ない平安時代の石帯具の発見が新聞報道され(岩手日報1997年11月12日記事)，また平成10年(1998)7月25日には現地説明会を実施，多くの市民が来跡した。一方，同年12月に着工していた新市場中央棟建築工事(本調査範囲外)に伴う基礎掘削工事中，古代の竪穴建物跡3棟が偶然発見され，平成11年(1999)1月に立会調査として遺構の精査等を実施した。

遺構保存　発掘調査が進捗する過程で，調査予定範囲の東端部にある鹿妻本堰(農業用水路)隣接の既存盛土の周囲でも竪穴建物等の遺構が検出され，盛土を撤去して発掘調査を行うかが協議され，緑地帯となるエリアは植栽土の客土工事のみとし，既存盛土は撤去しないこととなった。そのため，遺構検出面以下に工事掘削が及ばない緑地帯エリアの2,200㎡を対象に遺構を地下保存する協議を行い，30cmの遺構保護層を確保した上で植栽工事が実施されることとなり，遺跡の一部が地下保存された。

資料の整理と罹災　初年度の野外調査終了直後から，出土資料の洗浄と一部の整理が開始され，木製品の保存処理業務委託も実施された。発掘報告書刊行に向け，平成12年(2000)春からは重複して多数発見された竪穴建物跡の検討と第二原図の作成も開始していた。しかし，同年12月24日未明に，市立厨川小学校敷地内にあった文化財調査収蔵施設で火災が発生し，木造2階建の旧校舎は全焼。整理作業中であった当該調査資料の大部分が罹災・焼失した。しかし，平成24年度(2012)から罹災資料の復旧と再整理を開始，報告書刊行に向けて実測図化や写真撮影等を行い，平成11年(1999)の野外調査終了から20年以上の歳月を経ての発掘報告書刊行となった。

体制

〔事　業　者〕盛岡市
（中央卸売市場新市場整備推進室(当時)）
〔調査主体〕盛岡市教育委員会
〔事　務　局〕盛岡市教育委員会文化課（当時）
〔調　　査〕盛岡市教育委員会文化課文化財係（当時）
〔助　　言〕文化庁，岩手県教育委員会，
岩手県埋蔵文化財センター
〔発掘調査担当者（当時）〕
第1次：黒須靖之，藤村茂克，佐々木真史
第2・3次：八木光則，津嶋知弘，平澤祐子
第4次：津嶋知弘，花井正香，平澤祐子

Ⅱ　遺跡の立地と環境

大島遺跡は，盛岡市の中心部から南南西へ約6km，JR東北本線岩手飯岡駅の西方約1.5kmの，盛岡市羽場10地割に所在する。北西に東北自動車道盛岡南インターチェンジが隣接し，東は鹿妻本堰（大規模農業用水路）が北西から南東に流れている。区域的には羽場地区に属し，北と東は飯岡地区が隣接し，南は矢巾町である。

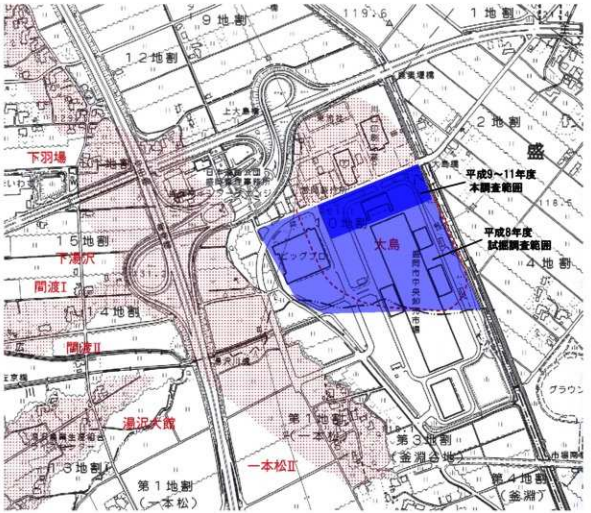
盛岡は，岩手県から宮城県を南流する北上川に中津川・雫石川・雫川といった支流が合流する，北上盆地の北端にある。本遺跡は，雫石川が最も南流した時の氾濫平野に立地し，西方に隣接する沖積段丘との比高差は約10m，標高値は119.0m前後である。

雫石川は奥羽山脈から東流し，鳥沼山と箱ヶ森に挟まれた北の浦付近で急激に流路を狭められ，その狭窄部を抜け北上盆地に入り，北上川と合流する。雫石川の北岸には岩手山を供給源とする火山砕石流堆積物と火山灰層からの台地が発達していることにより，狭窄部以東の南岸に流路転換が顕著に見られ，沖積段丘（砂礫段丘）と，旧河道である氾濫平野が発達している。古代城柵「志波城」をはじめ，古代集落のほとんどが，沖積段丘上（微高地上）に立地しているのに対し，大島遺跡はそれらより低い氾濫平野にある。

新市場整備直前の当該地は，古くからの屋敷地などがない整然と区画された水田地が広がっており，昭和23年(1948)にアメリカ軍が撮影した航空写真を確認しても，その区画は不揃いなものの，周辺一帯が水田となっていることが見られる。

本遺跡の近隣に下羽場・下湯沢遺跡，一本松遺跡がある（第1図）。下羽場・下湯沢遺跡は，東北自動車道建設に伴い昭和49～51年(1974～76)に岩手県教育委員会により発掘調査が行われている（岩手県教委1979）。9世紀前半の竪穴建物跡4棟や，9世紀後半～10世紀前半の竪穴建物跡25棟のほか，遺跡の東端部では9世紀代と考えられる円形周溝墓が発見され，須恵器長頸瓶や，坏に「二万」などと記した墨書土器が出土している。一本松遺跡は矢巾町域の遺跡であり，東北自動車道建設に伴い昭和50年(1975)に岩手県教育委員会により発掘調査が行われ（岩手県教委1979），平安時代の竪穴建物跡8棟・掘立柱建物跡1棟などが発見されている。近年では，新市場に接続する盛岡市道簗淵谷地・上野線の建設に伴い平成11～19年(1999～2007)に盛岡市教育委員会が発掘調査を行い（盛岡市ほか2008），9世紀前葉～10世紀前葉の竪穴建物跡32棟などが発見され，多くの土器類のほか，鉄製品（鏃先）が出土した。

大島遺跡付近空中写真（国土地理院，平成20年）



第1図　大島遺跡周辺全体図(1:10,000)

第1次調査A区全景(東から)

第2次調査E区全景(南東から)

第4次調査Q区北半全景(北西から)

第1次調査C区全景(東から)

第2次調査G区東全景(北西から)

第4次調査R・S区全景(東から)

大島遺跡発掘調査全景写真

第2図　大島遺跡発掘調査全体図，調査区・グリッド配置図(1:1,500)

Ⅲ 調査成果

1 第1～4次調査の概要

調査面積 平成9～11年度(1997～99)の3ヵ年にわたる本調査面積の合計は 27,300 ㎡(対象面積33,000 ㎡)であり、その内訳は、調査終了面積が25,100 ㎡、遺構保存面積が 2,200 ㎡である。重機により表土(水田耕作土)を除去し遺構検出を行った。

検出遺構 本調査で検出された総遺構数は、古代の竪穴建物跡127棟、掘立柱建物跡16棟、竪穴状遺構3基、土坑152基、溝跡68条、円形周溝1基、畝間状遺構 10 箇所、堰状遺構、遺物包含層(沢状低地)4箇所である。また、近世は掘立柱建物跡14棟、柱列跡8基、土葬墓2基、土坑5基、溝跡19条、ピットである。

出土遺物 出土した遺物の総数は、プラスチックコンテナ約 120 箱に及ぶ。その内訳は、古代の土器(土師器・須恵器・あかやき土器)、墨書土器、緑釉陶器、石帯具(銙尾・丸鞆)、砥石、土錘、土製紡錘車、フイゴ羽口、鉄滓、琥珀原石、木製鍬、木皿、柱材、炭化種子、焼骨(獣骨)である。また、近世の寛永通宝、棺桶板材なども出土した。

各次調査の概要は、以下のとおりである(第2図)。

(1) 第1次調査

第 1 次調査は、市道大島線拡幅工事範囲(移転の個人住宅地を除く)を対象とし、本調査区全体の北辺に位置する。調査区域が長大であること、また調査期間が限られることから、担当職員ごとに一定の区域と遺構番号を振り分け、並行して複数調査区の遺構精査を進行する方針とし(3年間継続)、A～C区に区分された。

A区は個人住宅地の東方で、古代の竪穴建物跡 6 棟(RA001～006)、竪穴状遺構1基(RE008)、土坑19基(RD001～019)、溝跡 1 条(RG001)、近世の溝跡 4 条(RG002～005)、ピットを精査した。

B区は個人住宅地の西方東半部で、古代の竪穴建物跡 3 棟(RA009～011)、土坑 3 基(RD021～023)、溝跡 6 条(RG006・008～012)、円形周溝1基(RG007)、沢状低地(中央東遺物包含層・中央西遺物包含層)、ピットを精査した。

C区は個人住宅地の西方西半部で、古代の竪穴建物跡21棟(RA012～018・020～023・025・028・029・051～057)、土坑 11 基(RD031～038・051～053)、溝跡 6 条(RG014・023・051～055)、近世の掘立柱建物跡5棟(RB801・802・804～806)、掘立柱列跡 1 基(RC806)、溝跡 2 条(RG013・015)、ピットを精査した。一部は第2次調査当初に持ち越して精査された。

(2) 第2次調査

第 2 次調査は、主に本調査区の南辺中央に位置する新市場中央棟建築工事範囲、中央部を走る逆U字形の場内道路工事範囲、及び個人住宅移転範囲の一部を対象とし、D～L区に区分された。

D区は新市場中央棟建築工事範囲で(O・R・S区の南方)、遺構は確認されなかったが、表土直下より遺物が出土した。

E区は場内道路工事範囲の北西コーナー部で(C区の南に隣接)、古代の竪穴建物 36 棟(RA059～098)、掘立柱建物跡 4 棟(RB051～054)、土坑 43 基(RD054～091・101～105)、溝跡 9 条(RG056～063)、沢状低地(中央西遺物包含層)、近世の掘立柱建物跡(RB803・807～812)、掘立柱列跡5基(RC801～805)、土葬墓 2 基(RD801・802)、溝跡 3 条(RG055・801～803)、ピットを精査した。

F区は場内道路工事範囲の西部で(E区の南に隣接)、古代の竪穴建物跡 5 棟(RA101～105)、土坑 15 基(RD092～100・111～116)、溝跡 10 条(RG064～073)、沢状低地(中央西遺物包含層)、近世の掘立柱建物跡 2 棟(SB813・814)、掘立柱列跡 2 基(RC807・808)、ピットを精査した。

G区は場内道路工事範囲の北部西半で(E区の東・B区の南に隣接)、古代の竪穴建物跡 4 棟(RA151～154)、掘立柱建物 1 棟(RB070)、土坑 6 基(RD151～156)、溝跡 9 条(RG151～159)、沢状低地(中央西遺物包含層・中央東遺物包含層)、近世の土坑 1 基

(RD803)，溝跡 1 条(RG816)，ピットを精査した。

H区は場内道路工事範囲の北東コーナー部で(A区の南に隣接)，古代の竪穴建物跡 5 棟(RA171・173～175・177)，掘立柱建物跡 2 棟(RB171・172)，竪穴状遺構 1 基(RE171)，土坑 11 基(RD171～181)，溝跡 8 条(RG171～178)，畝間状遺構(RX306)，近世の土坑 1 基(RD804)，溝跡 4 条(RG812～815)，ピットを精査した。

I区は場内道路工事範囲の東部で(H区の南に隣接)，古代の竪穴建物跡 2 棟(RA172・176)，掘立柱建物跡 1 棟(RB173)，沢状低地(東包含層)，ピットを精査した。

J区は個人住宅移転後の市道大島線拡幅工事範囲中央部で(G区の北東に隣接)，古代の竪穴建物跡 1 棟(RA161)，土坑 4 基(RD161～164)，溝跡 3 条(RG161～163)，畝間状遺構 1 箇所(RX307)，近世以降の溝跡 1 条(RG841)，ピットを精査した。

K区は個人住宅移転後の場内道路工事範囲中央部で(J区の南に隣接)，古代の竪穴建物跡 7 棟(RA162～168)，土坑 3 基(RD165～167)，畝間状遺構 2 箇所(RX305・306)，近世の土坑 1 基(RD821)，ピットを精査した。

L区は場内道路西方駐車場工事範囲の西辺部で(C区西端の南に隣接)，沢状低地が確認されたが，遺物は出土しなかった。

(3) 第 3 次調査

第 3 次調査は，試掘調査の結果から本調査区外と判断した新市場中央棟建築工事の基礎掘削中に土器が出てきたと連絡があり，冬季の 1 月に急遽立会調査を実施したものである。建物の東辺北部にあたる基礎部分で，地盤の柱状改良工事で一部が壊されながらも古代の竪穴建物跡 3 棟と土器の出土を確認し，続けて遺構精査を行った。

(4) 第 4 次調査

第 4 次調査は，第 1・2 次調査区外の本調査区西側(場内道路西方，駐車場範囲)，中央南側(場内道路の内側，水産冷蔵庫・駐車場範囲)，東側(場内道路東方，緑地範囲)，北部中央(個人住宅移転後の市道拡幅工事現場事務所範囲)を対象とし，M～S区に区分された。

M区は場内道路西方の駐車場工事範囲の北半部で(E区の西に隣接)，古代の竪穴建物跡 6 棟(RA201～206)，土坑 10 基(RD201～210)，溝跡 4 条(RG201・202・205・206)，畝間状遺構 1 箇所(RX201)，沢状低地(西遺物包含層)，近世の溝跡 1 条(RG802)，ピットを精査した。

N区は場内道路西方の駐車場工事範囲の南半部で(F区の西に隣接)，古代の竪穴建物跡 2 棟(RA211・212)，土坑 1 棟(RD211)，堀状遺構 1 基(RX211)，沢状低地(西遺物包含層)，ピットを精査した。

O区は場内道路内側の駐車場工事範囲で(E・F区の東に隣接)，沢状低地(中央西遺物包含層)，ピットを精査した。

P区は個人住宅移転後に市道拡幅工事現場事務所があった緑地範囲で(H・J・K区に囲まれた範囲)，古代の土坑 1 基(RD241)，畝間状遺構 1 箇所(RX307)，近世の溝跡 1 条(RG841)，ピットを精査した。

Q区は場内道路東方の緑地範囲で(A・H・I区に隣接)，北半部において古代の竪穴建物跡 6 棟(RA251～255・258)，掘立柱建物跡 3 棟(RB251～253)，竪穴状遺構 1 基(RE257)，土坑 8 基(RD251～258)，近世の土坑 1 基(RD851)，溝跡 7 条(RG252・253・851～855)，ピットを精査した。

Q区南半部では古代の竪穴建物跡 15 棟(RA259～273)，掘立柱建物跡 2 棟(RB254・255)，土坑 14 基(RD259～272)，溝跡 6 条(RG253・256～260)，畝間状遺構 2 箇所(RX308・309)，沢状低地(東遺物包含層)，近世の土坑 1 基(RD852)の検出のみを行い，地下保存とした。

R区は場内道路内側の水産冷蔵庫範囲の西半部で(G区の南に隣接)，古代の竪穴建物跡 1 棟(RA221)，掘立柱建物跡 1 棟(RB221)，溝跡 5 条(RG221～225)，畝間状遺構 1 箇所(RX301)，沢状低地(中央東遺物包含層)，ピットを精査した。

S区は場内道路内側東半部の水産冷蔵庫・駐車場範囲で(R区の東に隣接)，古代の掘立柱建物跡 2 棟(RB231・232)，土坑 3 基(RD221～223)，溝跡 1 条(RG229)，畝間状遺構 4 箇所(RX302～304・306)，ピットを精査した。

2 調査の内容

(1) 古代の遺構分布

沢状低地と小集落区分　主体を占める古代の遺構分布を概観すると，南北に走る沢状低地に挟まれた微高地上に，集落が集中していることがわかる(挿図 1・2)。竪穴建物跡のまとまりから 5 箇所の小集落に分かれているようであり，東から「東 1 小集落」「東 2 小集落」「中央小集落」「西 1 小集落」「西 2 小集落」と呼称し区分する。また，沢状低地は遺物包含層となっており，その位置関係は，東 1 小集落の南に入るのが東遺物包含層，東 2 小集落と中央小集落の間に入るのが中央東遺物包含層，中央小集落と西 1 小集落の間に入るのが中央西遺物包含層，西 1 小集落と西 2 小集落の間に入るのが西遺物包含層である。なお，東 1 小集落と東 2 小集落の間には遺物包含層となる沢状低地がない。

(2) 古代の遺構と遺物

竪穴建物跡　古代の竪穴建物跡は計 127 棟が調査されているが，位置や形状が確認できたのは 119 棟である。大島遺跡が所在する古代斯波郡北部では，集落の土器群の大きな画期は 9 世紀の前葉と中葉の間にあり(津嶋 2013・2015)，その前後の様子を比較する(挿表 1)。

8 世紀代から 9 世紀前葉の年代が考えられる竪穴建物は 12 棟あり，その分布は東 1 小集落が 6 棟(RA001・002・005・006・171・177)，東 2 小集落が 2 棟(RA151・161)，西 1 小集落が 2 棟(RA061・072)，西 2 小集落が 2 棟(RA051・052)と，全域にまばらで相互の重複もない。また，カマドの作り替えや平面規模を拡張したものも見られない。規模は一辺 3m 未満の小型住居が 2 棟，一辺 3m以上 5m未満の中型住居が 5 棟，一辺 5m以上 7m未満の大型住居が 5 棟であり，大型住居と中型住居がそれぞれ約 40%と同じ比率で存在している。煙道がのびるカマド方向の傾きは，西 1 小集落の RA072 が唯一南東カマドである他は，北西カマドを最多として北～西方向のみと偏りが顕著である。床面に主柱穴があるのは 3 棟(RA002・005・161)，壁際に周溝があるのは 3 棟(RA001・002・161)である。

東 1 小集落の RA002(第 16 図)は平面規模が 6.0m×5.8mと大型住居であり，床面に炭化材が広がっていた。主柱穴には断面長方形の角柱材が残存(第 21 図 704)。出土遺物の多くが罹災焼失しており，土師器永島形壺(須恵器平瓶模倣か，罹災焼失)もその 1 つである。有段・丸底の土師器非ロクロ内黒坏が出土しており，8 世紀中葉の年代が考えられる。RA002 の南半部(2 次調査)からは，丸底・内湾の土師器非ロクロ内黒坏と口縁部が強く外反する土師器甕が出土しており，同様に 8 世紀中葉の年代が考えられる。RA171 からは底部が平底風となった土師器非ロクロ内黒坏と口縁部の外反が弱い土師器甕が出土しており(第 17 図)，8 世紀後葉～9 世紀前葉の年代が考えられる。

東 2 小集落の RA161(第 16 図)は平面規模が 5.4×6.3mと大型住居であり，4 口の主柱穴の底部付近に丸柱材が残存。床面の一部に炭化材が広がっていた。体部の段が沈線化または消失している土師器非ロクロ内黒坏が出土しており，8 世紀後葉～9 世紀前葉の年代が考えられる。

9 世紀代から 10 世紀前葉の年代が考えられる竪穴建物は 107 棟あり，その分布は東 1 小集落が 28 棟(RA003・004・172～176・251～255・258～273)，東 2 集落が 12 棟(RA009・152～154・162～168・221)，中央小集落が 2 棟(RA010・011)，西 1 小集落が 65 棟(RA012～018・020～023・025・028・029・053～060・062～071・074～085・087～092・094・095・098・101～105・201～206・211・212)であり，重複やカマドの作り替え，平面規模拡張が多く見られる。

複数カマド(煙道)や拡張もそれぞれ 1 棟としてカウントすると，規模は一辺 3m 未満の小型住居が 23 棟，一

辺3m以上5m未満の中型住居が92棟，一辺5m以上7m未満の大型住居が17棟，一辺7m以上の特大住居が4棟であり，中型住居が 68%と過半数を占め，大型・特大住居と小型住居がそれぞれ 15%，17%と近い比率となっている。煙道がのびるカマド方向の傾きは，東カマドを最多に北東～南東カマドが78棟と多数であり，8世紀代～9世紀前葉の竪穴建物群とは対称的である。しかし一方，南西～北カマドも42棟あり，より偏りが少ないと言える。なお，床面に主柱穴があるのは15棟(東1小集落 RA004・174・253，東2小集落 RA152a-c・165a-c，西1小集落 RA015a-c・018a-b，西1小集落 RA098)，壁際に周溝があるのは13棟(東1小集落 RA004，東2小集落 RA152″，西1小集落 RA013a-b・014・015a-c・018a-b・084b・098・211a)であった。

年代を細かく見ると，9世紀中葉から後葉の年代が考えられる竪穴建物は，東1小集落が RA173・175，東2小集落が RA152，西1小集落が RA068・078・084・098・104である。

東1小集落の RA173は，平面規模 5.8×5.9mの大型住居であり，多数の土器が出土しており(第17・18図)，底径がやや小型化したあかやき土器坏(345～357)が多く出土していることから，9世紀後葉の年代が考えられる。

東2小集落の RA152は，拡張とカマドの作り替えで5期変遷があり，最終の平面規模は 6.45×6.7mの大型住居である。出土土器を見ると，土師器ロクロ内黒坏・須恵器坏・あかやき土器坏がそれぞれ一定数組成していることから9世紀中葉の年代が考えられ，口縁部にタール状炭化物が付着した灯明皿や墨書土器もある。主柱穴には木材が残存し，木製鍬(第20図701・702)を礎板に転用して，断面長方形の角材(第21図705・706)が柱材となっている状況が確認された。

西1小集落の RA068は平面規模 4.4×4.4mの中型住居であるが出土土器が多く，土師器ロクロ内黒坏・須恵器坏・あかやき土器坏や土師器甕・あかやき土器甕，須恵器壺・大甕の組成状況から9世紀中葉の年代が考えられる。床面には板材が確認されている。RA078 の出土土器も9世紀中葉の年代が考えられるが，口縁部に鍔状の張り出しが付くあかやき土器の羽釜が特徴的である。羽釜は関東地方に特徴的な器種で，東北地方での出土は珍しく，秋田県横手市(旧平鹿郡大森町)下田遺跡で全体形が復元できる個体がある(秋田県埋文1994)。大鳥遺跡ではもう1個体の羽釜が RA084より出土している(第17図)。RA084は拡張された最終の平面規模が 6.6×5.9mの大型住居であり，出土土器は土師器坏・須恵器坏・あかやき土器坏の底径が大きめであることから9世紀中葉の年代が考えられる。罹災焼失しているが鉄滓やフイゴ羽口が出土しており，小鍛冶工房的役割も推定される。RA098は，平面規模 7.9×8.1mという大鳥遺跡最大の特大住居であり，9世紀中葉と考えられる多くの土器が出土しており，口縁部にタール状炭化物が付着した灯明皿，墨書土器，外反する口縁部に平行沈線文が入る土師器甕が出土している。また，主柱穴底面の木材と壁際周溝の板材(第22図707・708)が残存していた。RA104からも9世紀中葉と考えられる土器が出土しており，強く外反する口縁部に平行沈線文が入る土師器甕が出土している。

9世紀後葉から10世紀前葉の年代が考えられる竪穴建物は，西1小集落の RA082・090・101である。

RA082出土土器(第18図)を見ると，あかやき土器の小型坏や底部が小型化し厚みが増す形状の坏が出土している。RA090出土土器(第18図)のあかやき土器坏も同様であり，高台がやや高くなる高台付坏がみられる。

東1小集落の RA004は，出土土器が罹災焼失しているため年代の詳細は明確でないが 9世紀代と考えられ，その床面から石帯具の「鉈尾(だび)」(罹災焼失)が出土した。律令政府の官人が位階に応じて着用した革帯の装飾であるため岩手県内での出土例は限られ，特に「鉈尾」の市内における出土例は，盛南地区で岩手県埋文センターが調査した飯岡才川遺跡第13次調査 RA014竪穴建物跡(9世紀末～10世紀初頭)出土のもの(メノウ製，岩手県埋文2008)が唯一である。

また，西1小集落の RA015も出土土器が罹災焼失しているため年代の詳細は明確でないが 9世紀代と考え

られ，平面規模 7.1×6.9mと RA098 に次ぐ特大住居であり，北東カマド(RA015c)→南東カマド(RA015b)→西カマド(RA015a)の変遷があり，床面主柱穴と壁際の周溝が確認できる。

掘立柱建物跡　古代の掘立柱建物は，計 16 棟が調査されており，すべて 9 世紀の年代が考えられる。その分布は，東 1 小集落が 8 棟(RB171～173・251～255)，東 2 小集落が 4 棟(RB070・221・231・232)，西 1 小集落が 4 棟(RB051～054)である(挿表 2)。

構造を見ると，計 16 棟のうち過半数の 9 棟が 2 間×2 間で総柱の高床倉庫である(東 1 小集落が RB171・173・252・254・255，東 2 小集落が RB221，西 1 小集落が RB051～053)。数棟が並ぶ規則的(官衙的)配置はみられない。

東 1 小集落の RA253 掘立柱建物は，ゆがみがあるものの桁行 4 間×梁行 2 間の総柱建物であり，2 棟分の規模のある高床倉庫(北西－南東棟)と考えられる。

東 2 小集落の RB070 掘立柱建物は桁行 3 間×梁行 2 間の東西棟の側柱建物であるが，柱間はすべて 2.1m 等間。掘方の抜き取り穴に須恵器大甕・壺・長頸瓶が大量に廃棄され，掘方底面に礎板とした木材が残存していた(第 22 図 709・710)。南隣にほぼ同規模をコ字形に囲んだ RG156 周溝があり，その北側を RB070 の雨落溝とする施設(工房的もしくは官衙的なもの)である。RB232 掘立柱建物は，桁行 2 間×梁行 2 間の側柱建物であり，柱間が RB070 と同じ 2.1m 等間。RB232 の北東に隣接する RG229 溝跡は，雨落溝と考えられる。また，RB232 の北西に隣接する大型住居 RA152a は，そのカマド方向(W37.0° N)と SB232 の建物方向(W36.0° N)がほぼ一致しており，セットとなった一連の建物であった可能性がある。また，その西側に並ぶ RB231 掘立柱建物の建物方向も W35.5° N と RB232 に近く，これらは同時期に計画的に配置されたものと考えられる。また，RA152a＋RB232 の南西方には高床倉庫 RB221 が位置している。

西 1 小集落の RB054 掘立柱建物跡は，桁行 2 間×梁行 1 間の側柱建物であり，北東と南西に L 字形に隣接する RG055 溝跡は，雨落溝と考えられる。また，RB054 の北側に隣接する特大住居 RA098 は，そのカマド方向(W37.0° N)と RB054 の建物方向(W38.5° N)が近似しており，セットとなった一連の建物であった可能性がある。この RA098＋RB054 の南西方にも高床倉庫 RB051～053 が位置している。

東 2 小集落と西 1 小集落で確認された竪穴建物と掘立柱建物がセットとなる類例は，青森県・秋田県北部・岩手県北部で確認されている(高橋 1989，青森県教育委員会 1990)。竪穴部分が土間，掘立部分が作業場または馬屋ではないかと考えられている。

溝跡　東 2 小集落の西縁に小ピットを伴う布掘状の溝跡 RG155・221・222 があり，材木列等で西側を区画する施設と考えられる。また RG221 の南端部から垂直方向に列をなして密集するピット群は，柵列で南側を区画する施設の可能性がある。

円形周溝　中央小集落に，全体径が 6.0～6.3mの円形周溝 RG007 が確認されており，築造当初は溝の内側にマウンドがあったと考えられる。東北北部に分布し，6・7 世紀から 9 世紀前葉まで続く蝦夷(エミシ)の墓制「末期古墳」に類似しているようにも見える。類例としては，盛南地区の小幅遺跡，野古A遺跡，飯岡沢田遺跡など古代集落内で検出されており，

① 周溝が一部途切れる馬蹄形でなく完全な円形
② 群集せず単体で存在する

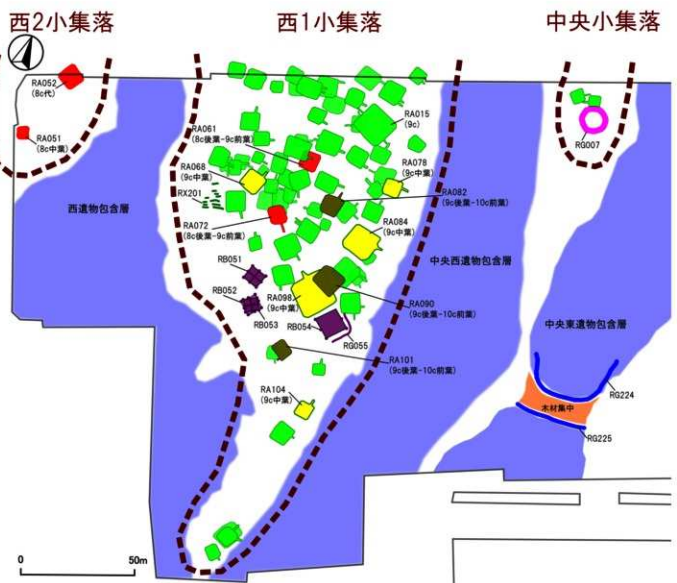
といった特徴がある。また，同様の円形周溝が城柵である志波城跡外郭南辺西部兵舎域でも確認されていることから，蝦夷が埋葬を行った「墓」とは考えにくい。しいて性格を推定するなら，宗教的な信仰対象としての「塚」であろうか。

畝間状遺構　小溝が平行に並んで群をなす畝間状遺構が，東 1 小集落に 2 箇所(RX308・309)，東 2 小集落に 7 箇所(RX301～307)，西 1 小集落に 1 箇所(RX201)確認された。特に東 2 小集落東半部の大部分を占める RX306 畝間状遺構は 37.5×27.0mと大規

模で，1段 30 条以上の小溝が 4～5 段連なっている。これら畝間埋土上層に灰白色テフラ（十和田a火山灰：915 年降下）が混じるものがあり，9 世紀後半～10 世紀初頭の年代が考えられる。これら畝間状遺構は，耕作地である畑の痕跡と考えられ，県南の奥州市や県央の北上市，県北の二戸市・軽米町の遺跡で調査例がある（岩手日報社 2001）。県南ではプラントオパール（植物珪酸体）分析から陸稲（おかぼ）の栽培が明らかとなっており，一方県北では畝間跡埋土の水洗選別によってイネ・オオムギ・マメなどの種子が検出されている。本調査では埋土の詳細な分析を行うことができなかったものの，東 2 小集落では畝間跡の重複と畝方向の傾きの違いから，RX301～305とRX306・307という2時期の変遷が想定され，建物域の隣接地で畑作（陸稲や雑穀類の栽培）が長期間行われていたと考えられる。

遺物包含層　調査区内の沢状低地に形成された 4 箇所の遺物包含層は層位が共通しており，灰白色テフラ（十和田a火山灰）の混じるA1・2 層から土師器・須恵器・あかやき土器の破片が出土しており，包含層の形成は 10 世紀前葉の年代が考えられる。

中央東遺物包含層の南部では，黒色土のB層から木材や木製鍬（褶炭焼失）が集中して出土している。この部分は，沢状低地を切るように平行して走る側溝

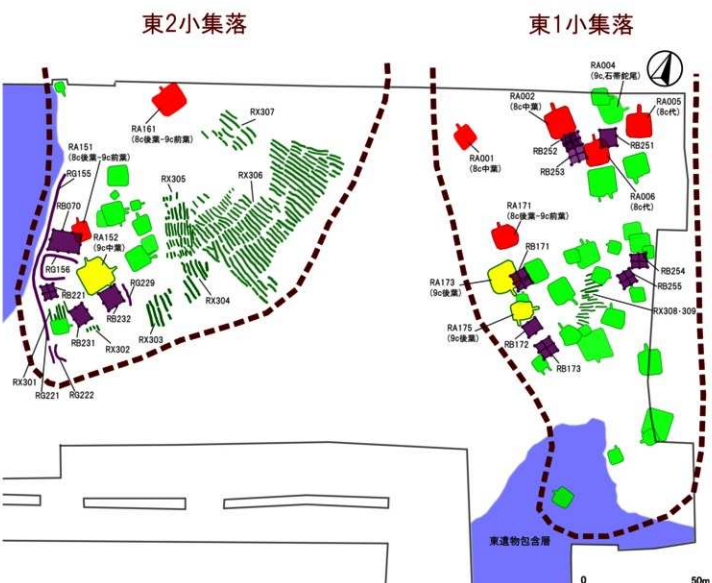


挿図1　大島遺跡古代遺構分布概念図（西半部）

（RG224・225）があり，集中する木材が路面となって幅4.5～5.0mの通路状となっていたようである。通路の年代は9世紀中葉～後葉と考えられる。

遺構外等出土遺物　東2小集落の南東隅表土，西1小集落の北部及び中央表土より石帯具の「丸鞆（まるとも）」3個体が出土している（第19図601～603）。いずれの出土位置も竪穴建物密集域であることから，「鉈尾」が東1小集落RA004竪穴建物から出土したのと同様，本来は竪穴建物に伴うものであった可能性が高い。東2小集落表土出土の601と，西1小集落北部出土の602は黒色粘板岩製で裏面の縫付穴が3箇所。一方，西1小集落中央表土出土の603はやや緑がかった白色メノウ製で裏面の縫付穴が2箇所であった。「鉈尾」と同様に岩手県内での出土例は限られ，市内では他に出土例がない。周辺竪穴建物と同様の9世紀中葉～10世紀前葉の年代が考えられる。

また，西1小集落南部表土より緑釉陶器皿（罹災焼失）の破片が出土している。緑釉陶器は主に平安時代初頭から東海・近畿地方で多く生産された施釉陶器の一種。東北地方出土のほとんどは陸奥国府多賀城跡とその周辺，鎮守府胆沢城跡に集中しており，一般集落からの



挿図2　大島遺跡古代遺構分布概念図（東半部）

出土例は少ない。当該緑釉陶器は 9 世紀前半の黒笹 14 号窯式(K14)に相当する，岩手県内出土例の中で古いもののようである。

3 調査の総括

大島遺跡の古代集落は，竪穴建物数の多さから羽場地区の中心的集落であったと考えられる。羽場地区は，古代「斯波郡」(『日本後紀』延暦二年(811)正月)北部にあるものの，約 10km 離れる志波城跡(803 年造営)と徳丹城跡(812 年造営)のほぼ中間地点に位置し，両地域を結ぶ重要地点であったと考えられ，地形的には不安定な河川氾濫原の中に立地する沢状低地に挟まれた中州にもかかわらず，100 年以上執着してムラが営まれていることがその証とみられる。

竪穴建物と掘立柱建物が密集し，隣接して畑作が行われるという"大島ムラ"が最盛期を迎える 9 世紀中葉から 10 世紀は，志波城・徳丹城の廃絶(9 世紀前葉末)により律令政府の直接統治が後退し，鎮守府胆沢城が北上盆地全域を広域統治した時代と考えられている。9 世紀前葉は"志波エミシ"が勢力を温存し，在地系一般集落における土器組成も非ロクロ成形の内黒土師器坏を主体とし，竈制も伝統的な末期古墳を継承する円形周溝竈が維持された。しかし同時に東北南部～関東以西より新しい農業技術や手工業技術が，志波城・徳丹城による直接統治を通じて流入したようであり，生産性の向上から 9 世紀中葉以降，既存集落内の住居数が増加するとともに，集落数も増加している。大島ムラの高床倉庫の多さは，穀物の集積を意味すると考えられ，また側柱建物や竪穴＋掘立建物が工房的施設とすれば，組織的手工業生産拠点であったと考えられる。8 世紀代から継続する集落の蝦夷族長は，律令制統治下で在地蝦夷系有力者へと転換・成長し，9 世紀中葉以降の鎮守府胆沢城は彼らを介して間接的な広域統治システムを維持していたようである。出土した石帯具や緑釉陶器は，そのような関係の中で胆沢城から下賜された象徴的品物と見られる(津嶋 2004)。

大島遺跡古代集落の発掘調査成果は，志波城・徳丹城廃絶後の北上盆地北部の古代史を明らかにするものであり，その後「奥六郡」を支配した安倍氏から世界遺産「平泉」を中心に東北全土を支配した奥州藤原氏へと続く歴史の起点と言え，盛岡に残る貴重な歴史文化遺産と評価できる。

【引用・参考文献】

青森県教育委員会　1990「第Ⅸ章　蝦夷のくに」『図説ふるさと青森の歴史』総括編

秋田県埋蔵文化財センター　1994『もうすぐ歴史が見えてくる』東北横断自動車道秋田線(秋田市－山内村間)発掘調査終了記念誌

岩手県教育委員会　1979『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅱ－』岩手県文化財調査報告書第 32 集

岩手県埋蔵文化財センター　2008『飯岡才川遺跡第 7・13 次・細谷地遺跡第 12 次・矢盛遺跡第 9 次調査発掘調査報告書　一般国道 46 号盛岡西バイパス建設事業関連遺跡発掘調査』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 508 集

岩手日報社　2001『いわて未来への遺産　古代・中世を歩く　奈良～安土桃山時代』

高橋学　1989「竪穴住居と掘立柱建物が併列して構築される遺構について－能代市福田遺跡・十二林遺跡を端緒として－」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第 4 号

津嶋知弘　2004「志波城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編　高志書院

津嶋知弘　2013「古代「斯波(志波)」郡北部の土器群変遷(その 1)－雫石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に－」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.2(盛岡市ホームページ)

津嶋知弘　2015「古代「斯波(志波)」郡北部の土器群変遷(その 2)－雫石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料②－」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート Vol.4(盛岡市ホームページ)

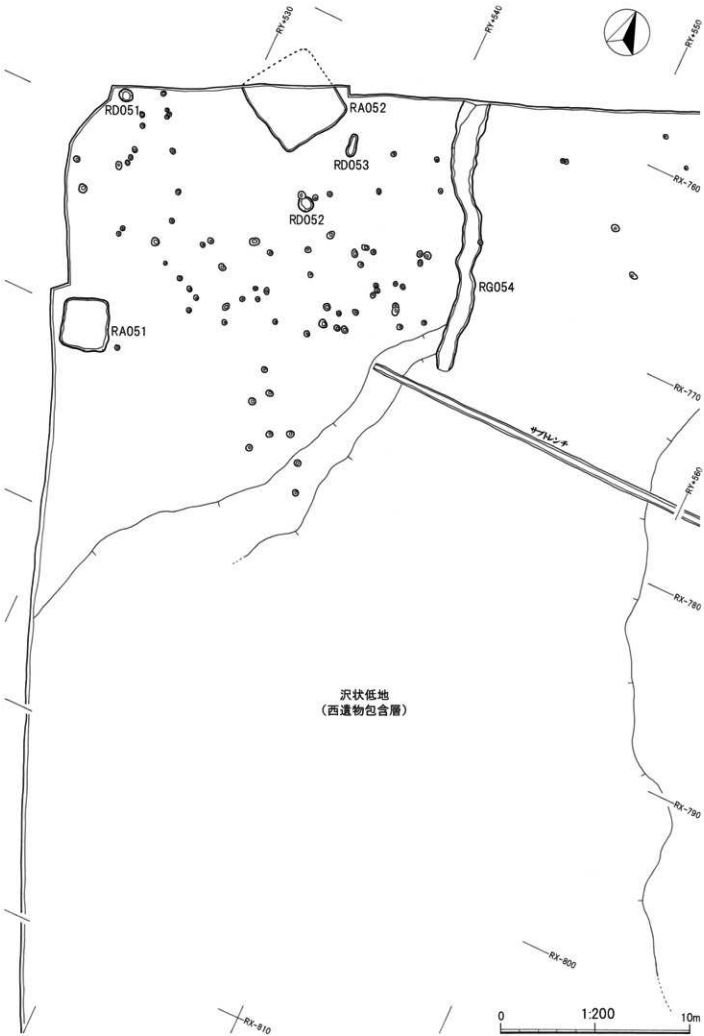
盛岡市・盛岡市教育委員会　2008『一本松遺跡－市道釜淵谷地・上野線建設関連発掘調査報告書－』

挿表1 大鳥遺跡古代主要竪穴建物跡一覧表

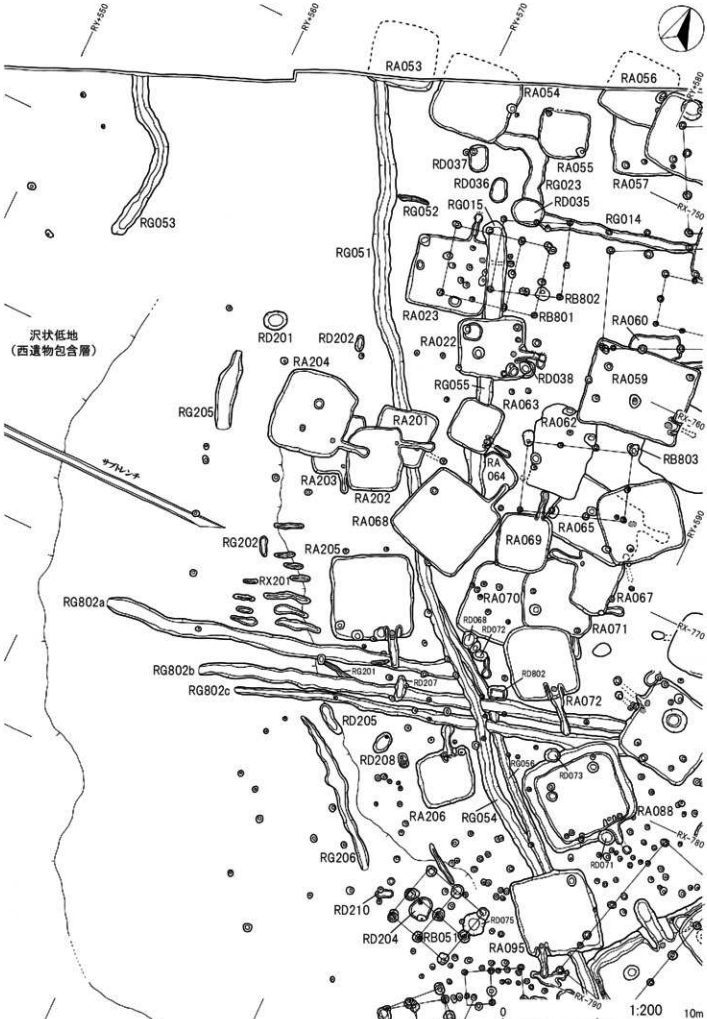
No.	小集落	遺構名	カマド方向	煙道	平面規模(m)	規模区分	主柱穴	周溝	時期	備考
1	東1	RA001	W 29.0 ° N 北西	長い煙道	3.9×4.1	中型	×	○	9世紀中葉	1次調査遺物確認焼失
2	東1	RA002	W 44.5 ° N 北西	長い煙道	6.0×5.8	大型	○	○	9世紀中葉	土鳥形壺、柱穴柱材 遺物確認焼失
4	東1	RA004	E 45.0 ° N 北東	長い煙道	4.8×5.6	大型	○	○	9世紀代か	石帯(紙尾) 遺物確認焼失
5	東1	RA005	N 20.5 ° W 北	長い煙道	5.35×5.2	大型	○	×	9世紀代か	遺物確認焼失
6	東1	RA006	N 40.0 ° W 北西	長い煙道	1.6以上×5.3	大型	×	×	9世紀代か	遺物確認焼失
7	東1	RA171	W 44.5 ° N 北西	長い煙道	4.8×5.1	大型	×	×	9世紀後葉～9世紀前葉	
9-1	東1	RA173a	E 40.0 ° S 南東	長い煙道	5.8×5.9	大型	×	×	9世紀後葉	
9-2	東1	RA173b	E 44.0 ° S 南東	長い煙道	5.8×5.9	大型	×	×	9世紀後葉	
11-1	東1	RA175a	S 32.0 ° E 南東	長い煙道	3.7×4.0	中型	×	×	9世紀後葉	
11-2	東1	RA175b	E 33.0 ° N 北東	長い煙道	0.8以上×3.1	中型か	×	×	9世紀後葉	
No.	小集落	遺構名	カマド方向	煙道	平面規模(m)	規模区分	主柱穴	周溝	時期	備考
36	東2	RA151	N 41.5 ° W 北西	長い煙道、トンネル状	4.0×3.6	中型	×	×	9世紀後葉～9世紀前葉	
37-1	東2	RA152a	W 37.0 ° N 北西	長い煙道	6.45×6.7	大型	○	×	9世紀中葉	灯明皿、墨書土器、 木製風呂敷、柱材
37-2	東2	RA152b	N 35.0 ° E 北東	長い煙道	6.45×6.7	大型	○	×	9世紀中葉	灯明皿、墨書土器、 木製風呂敷、柱材
37-3	東2	RA152c	E 33.5 ° S 南東	長い煙道、トンネル状	6.45×6.7	大型	○	×	9世紀中葉	灯明皿、墨書土器、 木製風呂敷、柱材
37-4	東2	RA152'	W 35.0 ° N 北西	長い煙道	4.7×5.1	中型	×	×	9世紀中葉	
37-5	東2	RA152"	— 南東か	煙道	4.3×4.2	中型	×	○	9世紀中葉	墨書土器
40	東2	RA161	W 33.5 ° N 北西	長い煙道	3.4×6.3	大型	○	○	9世紀後葉～9世紀前葉	柱穴柱材
No.	小集落	遺構名	カマド方向	煙道	平面規模(m)	規模区分	主柱穴	周溝	時期	備考
72	西1	RA061	— 西	煙道	4.2×4.3	中型	×	×	9世紀後葉～9世紀前葉	
79	西1	RA068	N 18.0 ° E 北	長い煙道、トンネル状か	4.4×4.4	中型	×	×	9世紀中葉	板状炭化材
83	西1	RA072	E 48.5 ° S 南東	長い煙道、トンネル状	3.9×3.5	中型	×	×	9世紀後葉～9世紀前葉	紡錘片
88	西1	RA078	E 5.5 ° S 東	長い煙道	3.8×3.5	中型	×	×	9世紀中葉	
92	西1	RA082	N 5.0 ° E 北	長い煙道	4.2×4.2	中型	×	×	9世紀後葉～10世紀前葉	
94-1	西1	RA084a	E 13.0 ° S 東	長い煙道	6.6×5.9	大型	×	×	9世紀中葉	
94-2	西1	RA084b	E 13.0 ° S 東	長い煙道	6.1×5.2	大型	×	○	9世紀中葉	
99	西1	RA090	— 南東	煙道	5.5×4.6～5.3	大型	×	×	9世紀後葉～10世紀前葉	
No.	小集落	遺構名	カマド方向	煙道	平面規模(m)	規模区分	主柱穴	周溝	時期	備考
104	西1	RA096	W 37.0 ° N 北西	長い煙道	7.9×8.1	特大	○	○	9世紀中葉	墨書土器、灯明皿、周溝 柱材
105	西1	RA101	S 29.0 ° W 南西	長い煙道	3.1×3.7	中型	×	×	9世紀後葉～10世紀前葉	
108	西1	RA104	N 14.0 ° E 北	長い煙道、トンネル状	3.3×3.3	中型	×	×	9世紀中葉	カヤ状炭化物・炭

挿表2 大鳥遺跡古代掘立柱建物跡一覧表

No.	小集落	遺構名	建物方向	構造(桁行×梁行)	規模(m)	時期	備考
1	東1	RB171	W 36.0 ° N 北西-南東	2間×2間、総柱	桁行総長3.6・柱間1.8+1.8、 梁行総長3.6・柱間1.8+1.8	9世紀	高床倉庫、側方柱材
2	東1	RB172	N 31.0 ° E 北東-南西	2間×1間	桁行総長3.6・柱間1.8+1.8、梁行2.7	9世紀	掘柱建物
3	東1	RB173	N 37.0 ° E 北東-南西	2間×2間、総柱	桁行総長3.6・柱間1.8+1.8、 梁行総長3.6・柱間1.8+1.8	9世紀	高床倉庫
4	東1	RB251	N 28.0 ° W 北西-南東	2間×2間	桁行総長3.9・柱間1.95+1.95、 梁行総長3.6・柱間1.8+1.8	9世紀	掘柱建物
5	東1	RB252	W 43.0 ° N 北西-南東	2間×2間、総柱	桁行総長3.0・柱間1.5+1.5、 梁行総長3.0・柱間1.5+1.5	9世紀	高床倉庫
6	東1	RB253	N 41.0 ° W 北西-南東	4間×2間、総柱	桁行総長8.3・柱間約1.5等間、 梁行北柱筋総長3.3・柱間1.65+1.65、 南柱筋総長3.5・柱間1.8+1.8	9世紀	高床建物
7	東1	RB254	E 26.5 ° N 北東-南西	2間×2間、総柱	桁行総長3.6・柱間1.8+1.8、 梁行総長2.7・柱間1.35+1.35	9世紀	高床倉庫、検出のみ保存
8	東1	RB255	W 33.0 ° N 北西-南東	2間×2間、総柱	桁行総長3.0・柱間1.5+1.5、 梁行総長3.0・柱間1.5+1.5	9世紀	高床倉庫、検出のみ保存
No.	小集落	遺構名	建物方向	構造(桁行×梁行)	規模(m)	時期	備考
9	東2	RB070	E 11.5 ° N 東西	3間×2間	桁行総長6.3・柱間2.1+2.1+2.1、 梁行総長4.2・柱間2.1+2.1	9世紀	掘柱建物、側方柱材、須恵器大甕
10	東2	RB221	N 38.0 ° W 北西-南東	2間×2間、総柱	桁行総長3.3・柱間1.65+1.65、 梁行総長2.7・柱間1.35+1.35	9世紀	高床倉庫
11	東2	RB231	W 35.5 ° N 北西-南東	2間×2間	桁行総長3.9・柱間1.95+1.95、 梁行総長3.3・柱間1.65+1.65	9世紀	掘柱建物
12	東2	RB232	W 36.0 ° N 北西-南東	2間×2間	桁行総長4.2・柱間2.1+2.1、 梁行総長4.2・柱間2.1+2.1	9世紀	掘柱建物、RA152b組合せか
No.	小集落	遺構名	建物方向	構造(桁行×梁行)	規模(m)	時期	備考
13	西1	RB051	W 16.0 ° N 東西	2間×2間、総柱	桁行総長3.6・柱間1.8+1.8、 梁行総長3.3・柱間1.65+1.65	9世紀	高床倉庫
14	西1	RB052	W 44.0 ° N 北西-南東	2間×2間、総柱	桁行総長3.3・柱間1.65+1.65、 梁行総長3.3・柱間1.65+1.65	9世紀	高床倉庫
15	西1	RB053	N 30.5 ° W 北西-南東	2間×2間、総柱	桁行総長3.0・柱間1.5+1.5、 梁行総長3.0・柱間1.5+1.5	9世紀	高床倉庫
16	西1	RB054	W 38.5 ° N 北西-南東	2間×1間	桁行総長4.8・柱間2.4+2.4、梁行4.95	9世紀	掘柱建物、RA091b組合せか

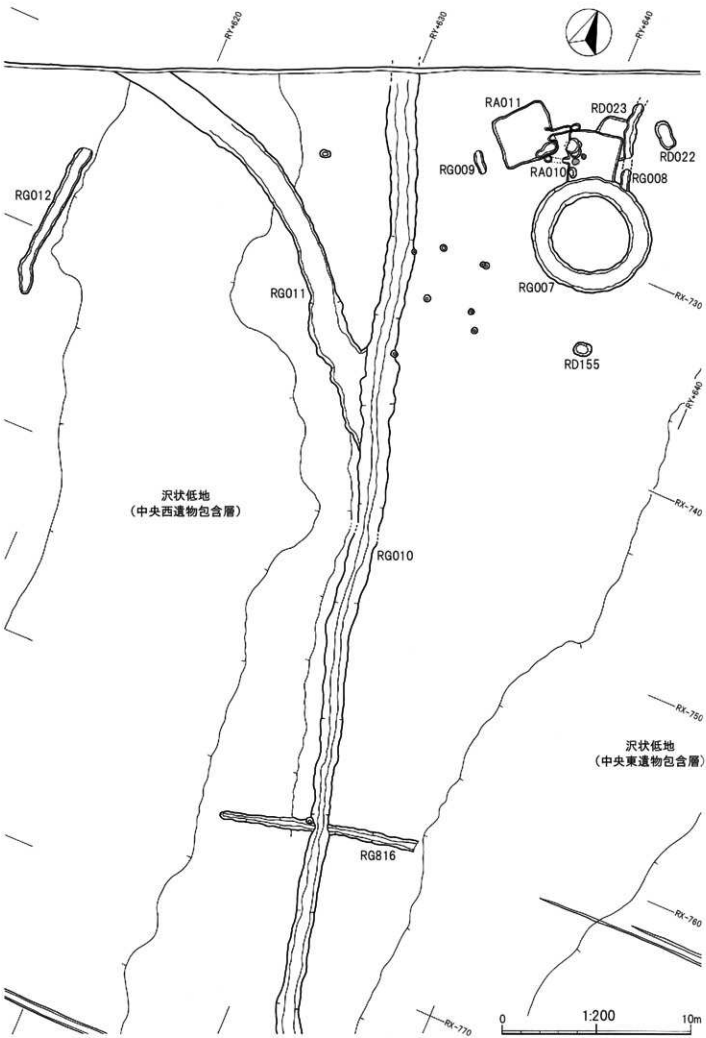


第3図　RA051・052竪穴建物跡，RD051～053土坑，RG054溝跡，西遺物包含層，ピット

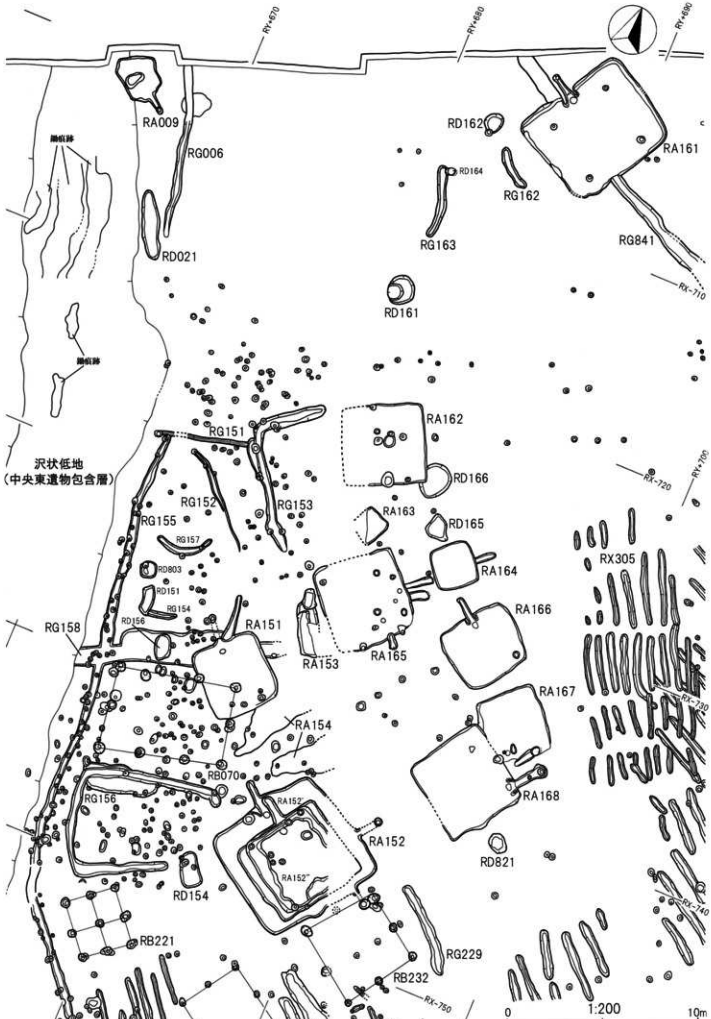


第4図　RA022・023・053～057・059・060・062～065・067～072・088・095・201～206竪穴建物跡，RB051掘立柱建物跡，RD035～038・068・071～073・075・201・202・204・205・207・208・210土坑，RG014・023・051～054・056・201・202・205・206溝跡，RX201畝間状遺構，RB801～803掘立柱建物跡，RD802近世土葬墓，RG015・055・802水路跡，西遺物包含層，ピット

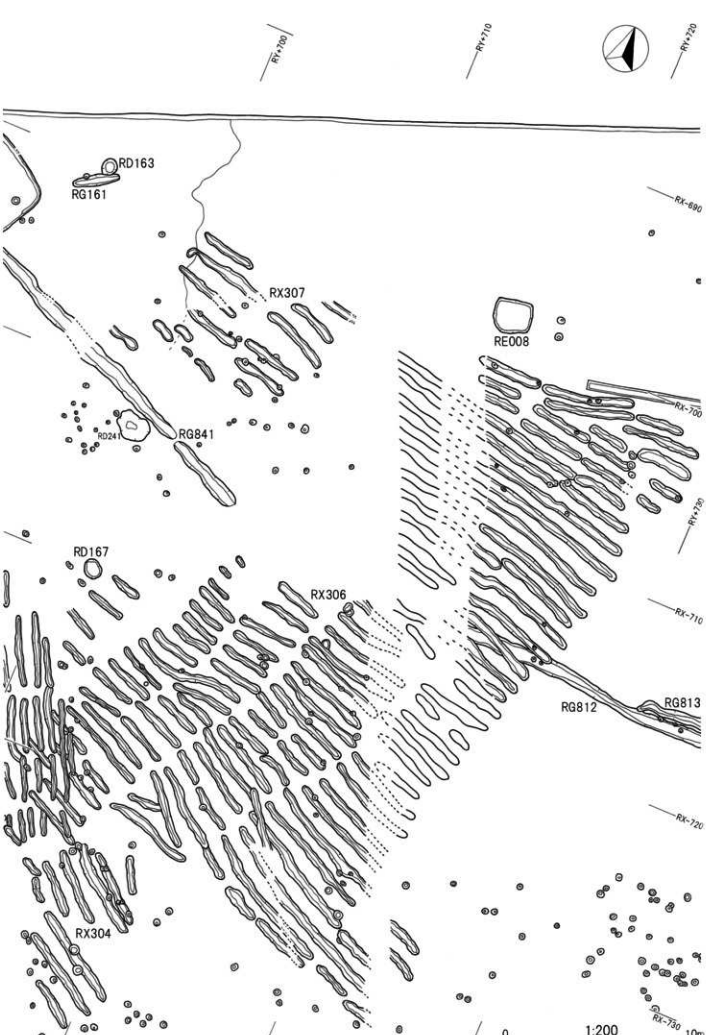
第5図　RA012～018・020・021・025・028・029・061・066・074～085・087・089・090・092・094竪穴建物跡，
RD031～034・054～070・091・101～105土坑，RG014溝跡，RB804～811近世掘立柱建物跡，RC801～806掘立柱列跡，
RD801土葬墓，RG013・801～803水路跡，中央西遺物包含層，ピット



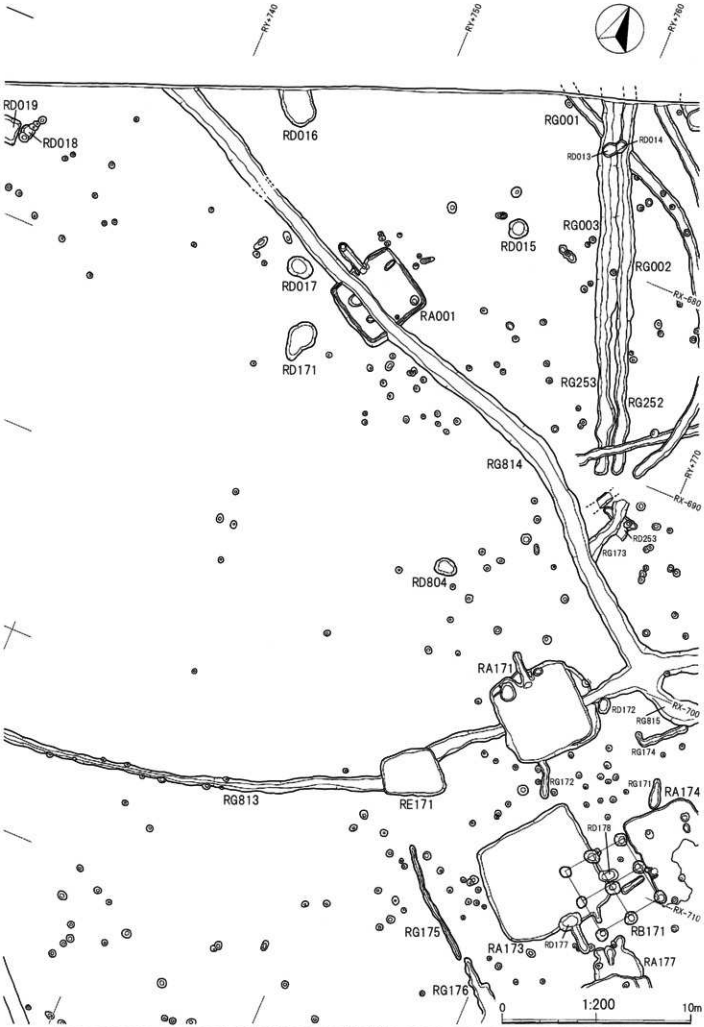
第6図 RA010・011竪穴建物跡,RD022・023・155土坑,RG007円形周溝,RG008～012溝跡,RG816近世水路跡,中央西・中央東遺物包含層,ピット



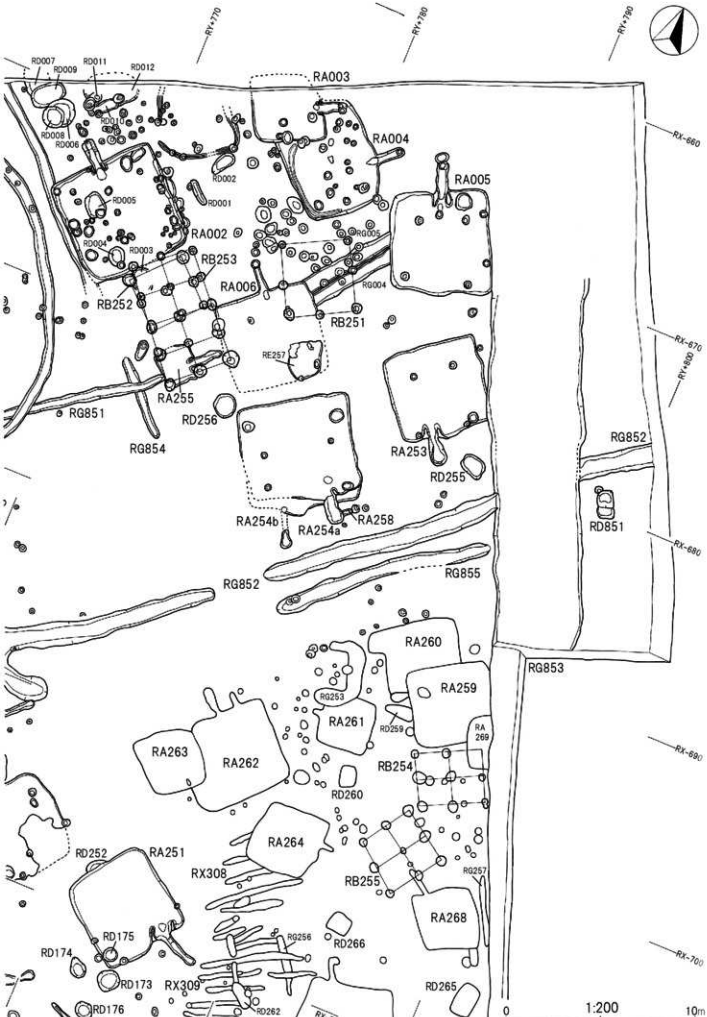
第7図　RA009・151～154・161～168竪穴建物跡，RB070・221・232掘立柱建物跡，RD021・151・154・156・161・162・164・166土坑，RG006・151～158・162・163・229溝跡，RX305畝間状遺構，RD803・821土坑，RG841水路跡，中央東遺物包含層，ピット



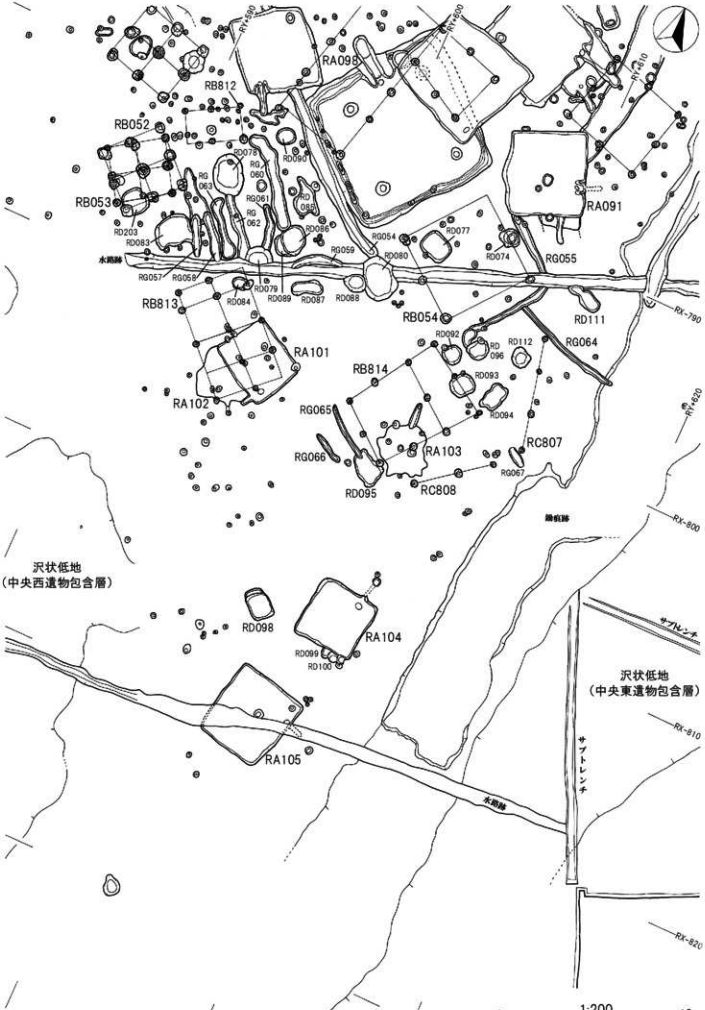
第8図 RD163・167・241土坑，RE008竪穴状遺構，RG161溝跡，RX304・306・307畝間状遺構，RG812・813・841近世水路跡，ピット



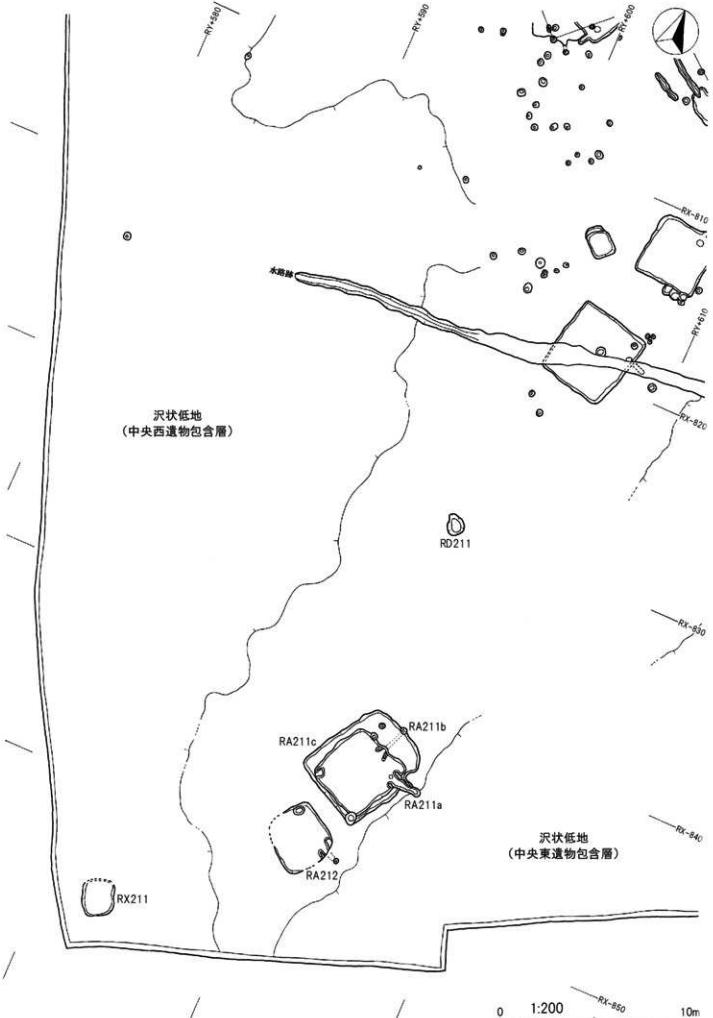
第9図　RA001・171・173・174・177竪穴建物跡，RB171掘立柱建物跡，RD013～019・171・172・177・178・253土坑，RE171竪穴状遺構，RG001・171～176溝跡，RD804近世土坑，RG002・003・252・253・813～815水路跡，ピット



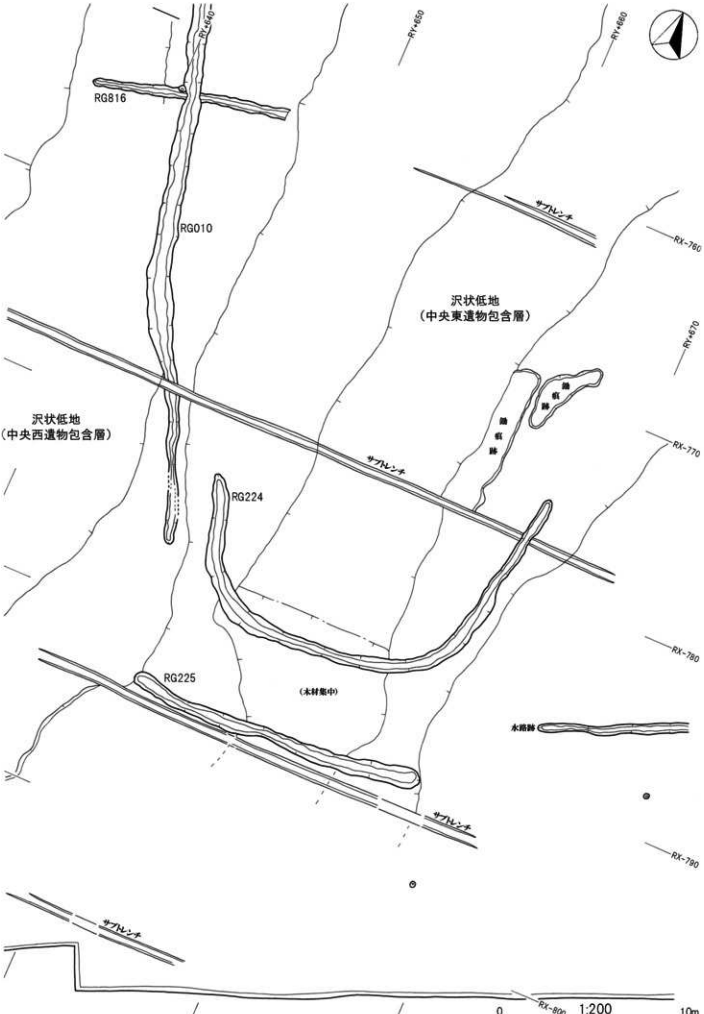
第10図 RA002～006・251・253～255・258～264・268・269竪穴建物跡，RB251～255掘立柱建物跡，RD001～012・173～176・252・255・256・259・260・262・265・266土坑，RE257竪穴状遺構，RG253・256・257溝跡，RX308・309畝間状遺構，RD851近世土坑，RG004・005・851～855水路跡，ピット



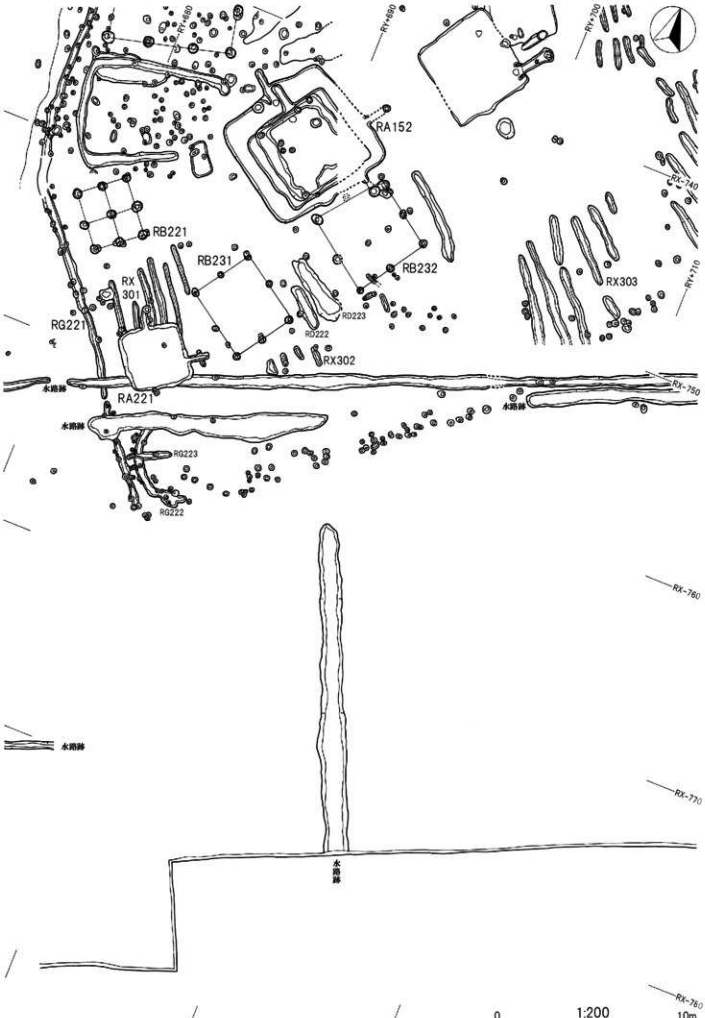
第11図 RA091・098・101～105竪穴建物跡，RB052～054掘立柱建物跡，RD074・077～080・083～090・092～096・098～100・111・112・203土坑，RG054・055・057～067溝跡，RB812～814近世掘立柱建物跡，RC807・808掘立柱列跡，中央西・中央東遺物包含層，ピット



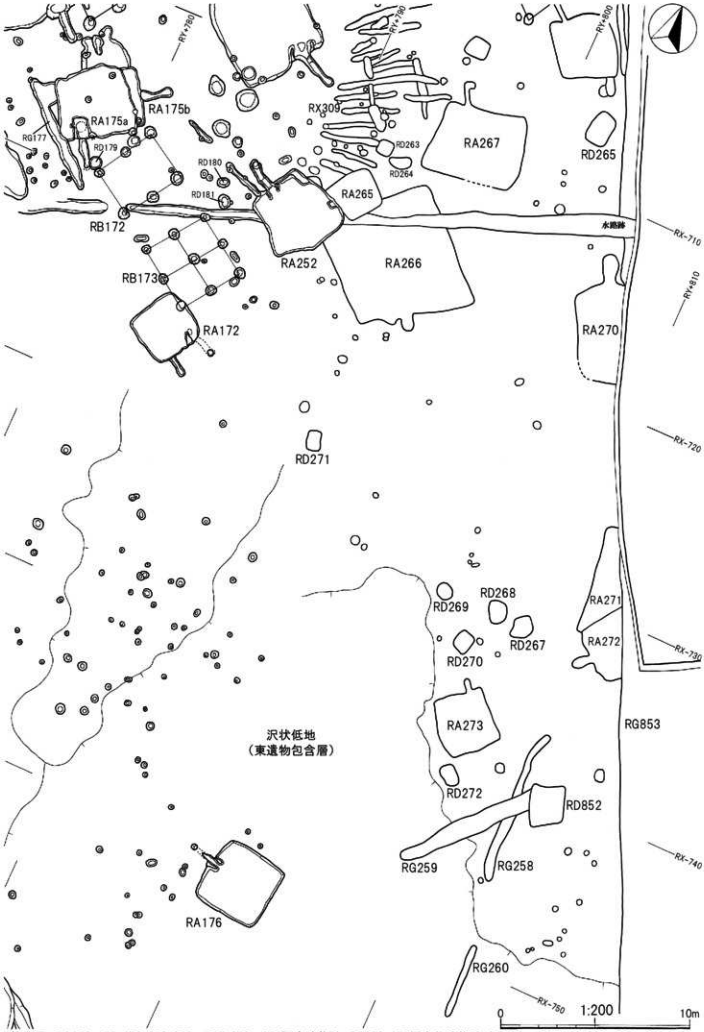
第12図 RA211・212竪穴建物跡，RD211土坑，RX211環状遺構，中央西・中央東遺物包含層



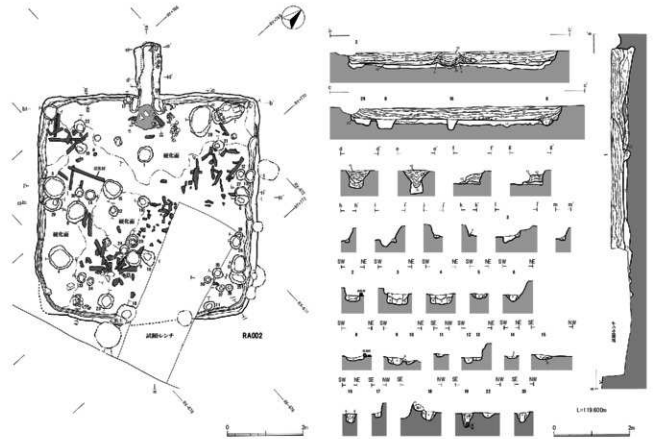
第13図　RG010溝跡，RG224・225通路側溝跡，中央西・中央東遺物包含層，ピット



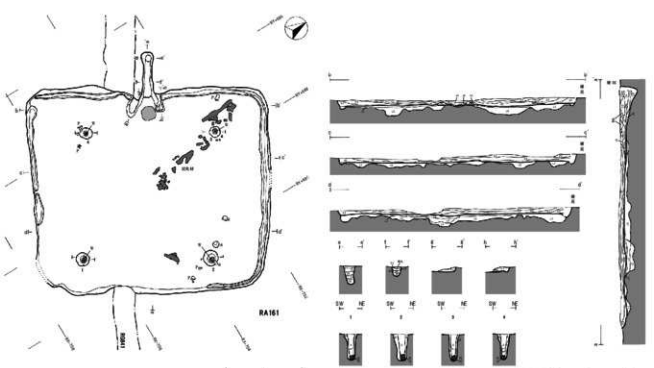
第14図　RA221竪穴建物跡，RB231掘立柱建物跡，RD222・223土坑，RG221～223溝跡，RX301～303歟間状遺構，ピット



第15図　RA172・175・176・252・265～267・270～273竪穴建物跡，RB172・173掘立柱建物跡，RD179～181・263・264・267～272土坑，RG177・178・258～260溝跡，RX309畝間状遺構，RD852近世土坑，RG853水路跡，東遺物包含層，ピット

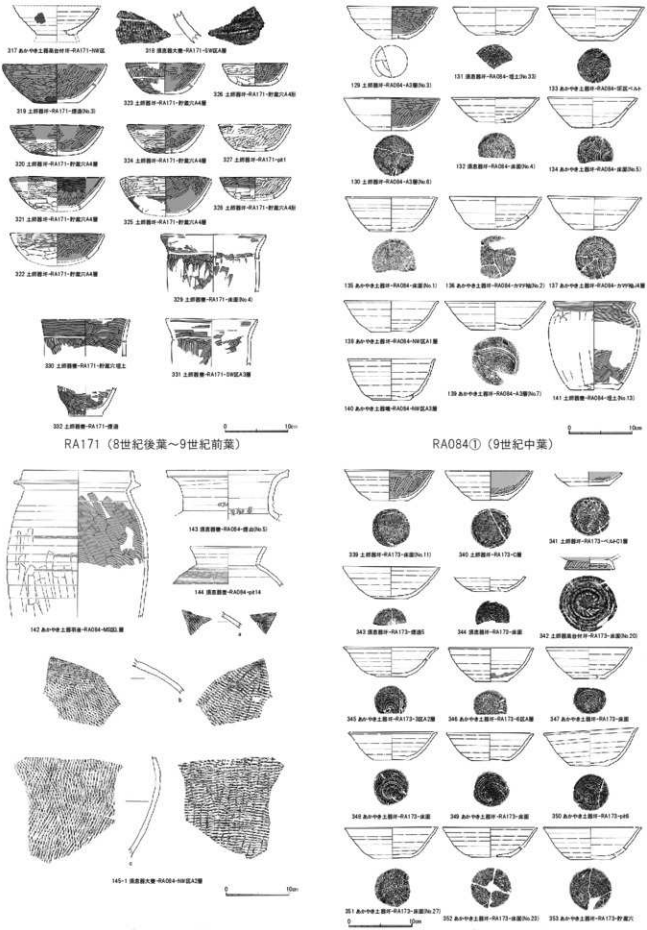


RA002竪穴建物跡（東１小集落，8世紀中葉）



RA161竪穴建物跡（東２小集落，8世紀後葉～9世紀前葉）

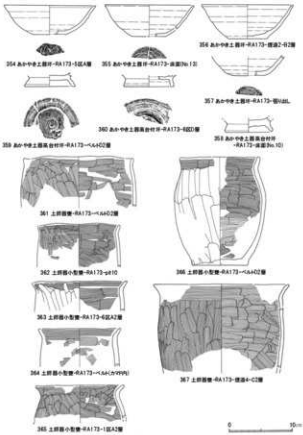
第16図　竪穴建物跡〔1:100〕



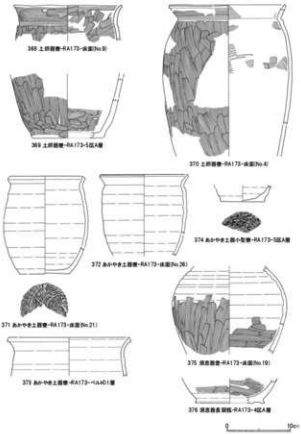
RA171（8世紀後葉～9世紀前葉）　RA084①（9世紀中葉）

RA084②（9世紀中葉）　RA173①（9世紀後葉）

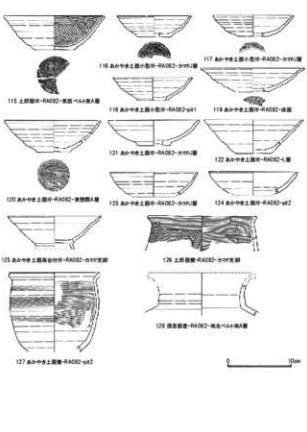
第17図　出土土器(1)〔1:6〕



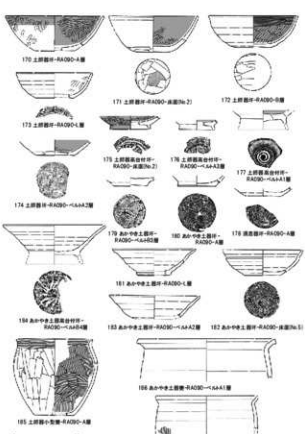
RA173②（9世紀後葉）



RA173③（9世紀後葉）

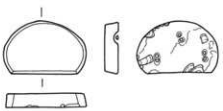


RA082（9世紀後葉～10世紀前葉）

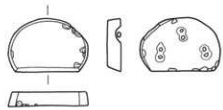


RA090（9世紀後葉～10世紀前葉）

第18図　出土土器(2)〔1:6〕

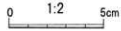


601 丸鞆-R区(N16-R3)検出面

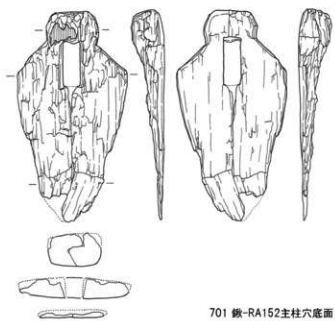


602 丸鞆-E区表土

603 丸鞆-C区表土

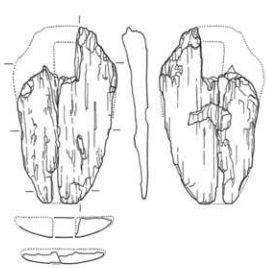


第19図 石帯具



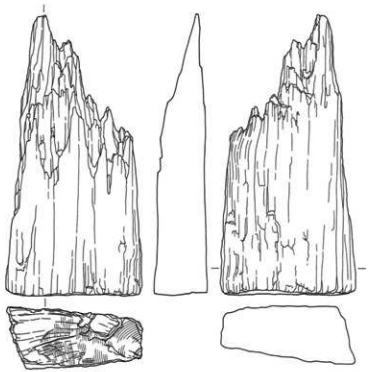
701 鍬-RA152主柱穴底面

703 皿(出土位置不明)

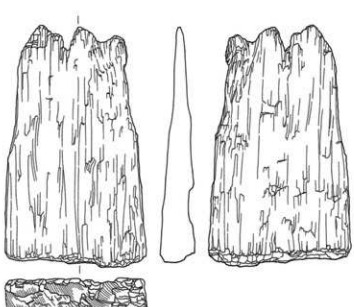


702 鍬-RA152主柱穴底面

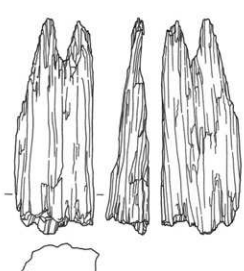
第20図 木製品



704 柱材-RA002主柱穴



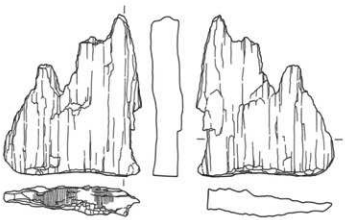
705 柱材-RA152主柱穴



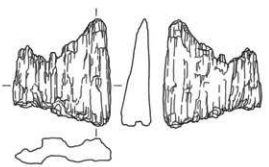
706 柱材-RA152主柱穴

0 1:6 20cm

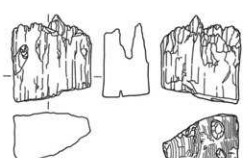
第21図 木材(1)



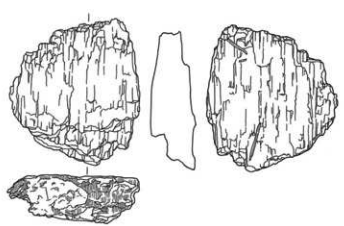
707 板材-RA098周溝



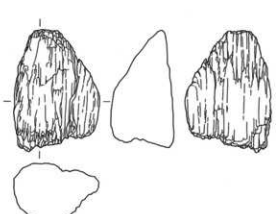
708 板材-RA098周溝



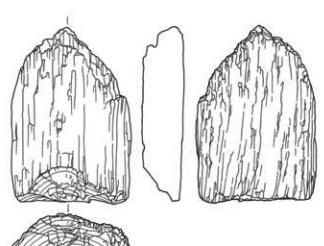
709 柱材-RB070掘方底面



710 柱材-RB070掘方底面



711 柱材-RB171掘方



712 柱材(第4次調査出土位置不明)

第22図 木材(2)

第1表　石製品観察表

図	番号	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態		出土		寸法(cm)			石材	特徴等	
							区分	器種	平面位置	層位	タテ	ヨコ	厚さ		表面	裏面
19	601	大島	HOS	004	遺構外	1	石製品	石棒(丸頭)	R区(N16-R3)	検出面	2.8	4.4	0.7	粘板岩(黒色)	研磨	磯材穴3箇所
19	602	大島	HOS	002	遺構外	2	石製品	石棒(丸頭)	E区	表土	2.8	4.2	0.7	粘板岩(黒色)	研磨	磯材穴3箇所
19	603	大島	HOS	002	遺構外	3	石製品	石棒(丸頭)	C区	表土	2.5	3.8	0.8	メノウ(白色)	研磨	磯材穴2箇所

第2表　木製品観察表

図	番号	遺跡名	略号	次数	遺構名	台帳No.	形態		出土		寸法(cm)			特徴等
							区分	器種	平面位置	層位	全長	幅	厚さ	
20	701	大島	HOS	002	RA152	1	木製品	網	主柱穴	底面	33.0	17.5	5.1	建板として転用
20	702	大島	HOS	002	RA152	2	木製品	網	主柱穴	底面	27.5	15.7	3.0	建板として転用
20	703	大島	HOS	002	不明	3	木製品	皿	—	—	13.0	7.7	1.7	表面が炭化
21	704	大島	HOS	002	RA002	4	木製品	柱材	主柱穴	—	44.3	20.5	9.9	断面長方形の角柱
21	705	大島	HOS	002	RA152	5	木製品	柱材	主柱穴	—	38.1	22.4	6.3	断面長方形の角柱
21	706	大島	HOS	002	RA152	6	木製品	柱材	主柱穴	—	34.0	12.7	6.1	断面長方形の角柱か
22	707	大島	HOS	002	RA098	10	木製品	板材	周溝	—	25.6	21.9	4.6	板材か
22	708	大島	HOS	002	RA098	8	木製品	板材	周溝	—	16.6	15.5	4.6	板材か
22	709	大島	HOS	002	RB070	9	木製品	柱材	盤方	底面	13.8	12.8	8.3	角材を建板に転用
22	710	大島	HOS	002	RB070	11	木製品	柱材	盤方	底面	23.0	20.6	7.6	角材を建板に転用
22	711	大島	HOS	002	RB171	12	木製品	柱材	盤方	—	19.3	13.6	10.0	丸柱か
22	712	大島	HOS	004	不明	7	木製品	柱材	—	—	27.9	19.1	7.1	主柱穴または盤方底面で建板に転用か

〔ディスク編〕

IV 遺構・遺物の詳細

報告書抄録

ふりがな	おおしまいせき だい1～4じはっくつちょうさがいようほうこくしょ
書名	大島遺跡 第1～4次発掘調査概要報告書
副書名	盛岡市中央卸売市場（新市場）整備関連発掘調査
編著者名	津嶋知弘
編集機関	盛岡市遺跡の学び館（刊行：盛岡市教育委員会）
所在地	〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13番地1　電話 019-635-6600
発行年月日	2021年8月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名(略号)	所在地	市町村	遺跡番号	（世界測地系）			(㎡)	
おおしま 大島(HOS)	いわてけん もりおかし 岩手県 盛岡市 ほんごう 本宮	03201		39°	141°	1次:1997.9.29~12.8	2,300	新市場整備事業
	字荒屋13番地1 ほか			39°	07'	2次:1998.4.10~11.9	12,100	
	羽場10地割			12"	45"	3次:1999.1.12~1.14	—	
						4次:1999.4.5~8.20	12,900	
							計27,300 (内2,200保存)	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大島1・2・4次	集落	古代	竪穴建物127、掘立柱建物16、 竪穴状遺構3、土坑152、 溝68、円形周溝1、 畝間状遺構10、堀状遺構1、 遺物包含層4	土師器・須恵器・あかやき土器 墨書土器、緑釉陶器 石帯具(蛇尾・丸鞆)、碁石 土錘、土製紡錘車、フイゴ羽口 鉄滓、木製風呂蓋?・臼、柱材 琥珀原石、炭化種子、焼骨(獣骨) 寛永通宝、椀稱板材	1・4次調査資料の 大部分は罹災焼失
		近世以降	掘立柱建物14、掘立柱列8、 土葬墓2、土坑5、溝19		
大島3次	集落	古代	竪穴建物3	土師器等	資料罹災焼失

要約

大島遺跡は、平安時代初頭の延暦22年(803)に律令政府が造営した古代城柵「志波城」の南東約4km、7～10世紀の竪穴建物が700棟以上調査された台太郎遺跡を含む盛南地区遺跡群の南方約5kmに位置する。新市場整備に伴う27,300㎡の発掘調査の結果、古代の竪穴建物(住居等)120棟以上、掘立柱建物(高床倉庫等)16棟などが確認され、羽場地区最大の集落であったことが明らかとなった。多数の土師器・須恵器等土器類のほか貴重な遺物が多数出土。特に律令政府の役人が使用した石帯具の出土は、調査当時は市内初(のちに盛南地区遺跡群の飯岡才川遺跡で出土・報告)。農具である木製風呂鍬・木臼の出土も市内唯一である。

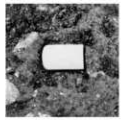
大島遺跡

第1～4次発掘調査概要報告書
－盛岡市中央卸売市場(新市場)整備関連発掘調査－

2021年8月31日

編集　盛岡市遺跡の学び館
〒020-0866 岩手県盛岡市本宮字荒屋13-1
電話 019-635-6600 FAX 019-635-6605
E-mail iseki@city.morioka.iwate.jp
URL http://www.city.morioka.iwate.jp/
遺跡の学び館　検索

発行　盛岡市教育委員会



石帯具(蛇尾)

水鳥状土器

罹災焼失資料

木製鍬